

- ➡ 滋賀県内の中高生を対象に、『起業家の集まるまち守山』を実感し、起業をキャリアのひとつとしてもらうことを目的に、2020年より4年連続で開催。
- ➡ 大津財務事務所も当該取組に賛同し、従前よりイベントに協力。支援機関、金融機関など幅広いメンバーと連携し、参加者のビジネスプランづくりをサポートしてきたところ。
- ➡ 今回の「もりやまシードチャレンジ」は、次世代を担う高校生たちが地域や社会の課題を発見し、実現したい未来の姿を意識しながら、課題解決のためにその課題を「タネ（＝シード）」として深掘りし、磨き上げるプログラム。
- ➡ 「もりやまシードチャレンジ」で見出した課題を「シードチャレンジピッチ（成果報告会）」にて発表。イベント当日は一般企業、金融機関、行政職員など、多種多様な職種の参加者が対面orオンラインで視聴。
- ➡ 当該ピッチイベントでは、高校生だけではなく地方公共団体のトップ（首長）が自らプレゼンするプログラム「首長ピッチ」を同時開催（首長自身がピッチを実施するイベントは全国初）。ピッチイベントの開催にあたり、近畿財務局及び四国財務局職員が出向中の3市町（滋賀県守山市、奈良県三宅町、香川県東かがわ市）の首長が出席できるよう、近畿財務局及び四国財務局が連携して協力。



もりやまシードチャレンジ & 首長ピッチ 開催！！

2023



【もりやまシードチャレンジ】

期間：令和5年9月～11月
 主催：守山市
 運営：一般社団法人インパクトラボ、
 株式会社COMARS
 協力：大津財務事務所

【シードチャレンジピッチ・首長ピッチ】

日時：令和5年11月18日（土）14:00～17:00
 主催：守山市
 共催：QUINTBRIDGE（大阪市都島区）
 協力：近畿財務局、四国財務局

参加チーム ※（）内はピッチの概要（詳細は後述参照）

- 立命館守山高校
 （守山市内の魅力スポットの発信強化（知る機会の提供））
- 滋賀県立守山北高校
 （学校を中退・転学する若者を少しでも減らすには）
- 滋賀県立守山高校 Aチーム
 （ごみの分別を分かりやすくして、不法投棄を減らす方法）
- 滋賀県立守山高校 Bチーム
 （学生が駅近で一緒に勉強できるスペースの創設）

キックオフ～ワークショップ等 (9/22、10/6、10/15、10/16～11/17)



【キックオフ】

本プログラムに関するガイダンス、参加者の自己紹介を経て、ワークショップに移行。(ワークショップは9/22、10/6、10/15の計3回実施)

【ワークショップ】

最初に、各分野(防災・防犯、子育て・教育、地域活性化、都市インフラ、福祉・保健衛生、環境)ごとに、参加者が直感的に思う(感じる)課題をアウトプット。



画用紙一面に貼られたポストイットを見直しなが、各校(チーム)ごとにプレゼンのテーマを決定し、発表したい課題(伝えたいこと)をブラッシュアップ。

【ピッチに向けた練習】

シードチャレンジピッチ(成果報告会)前日まで、各校(チーム)によるプレゼンの練習が行われ、大津財務事務所もコメントやアドバイスを付与。



シードチャレンジピッチ(成果報告会)、 首長ピッチ@QUINTBRIDGE(11/18)その①



【ピッチの概要について】

大阪市都島区の「QUINTBRIDGE」にて、令和5年11月18日(土)に開催。高校生4チーム及び3市町の首長が、それぞれ4～7分程度のプレゼンを行い、3人のコメンテーターによるフィードバックを受けるという形式で行われた。

【森中高史 守山市長 挨拶】

本日、このような素敵な会場でイベントが開催でき、関係者の皆様に感謝。これから発表する高校生は緊張していると思うが、自分たちの目線で思っていること、感じていることを思い切り発表してほしい。

首長ピッチでは、3市町のトップが人口・状況の全く違う地域の課題を自ら発表するので、活発な議論の種になれば幸い。



【関口祐司 近畿財務局長 挨拶】

財務局は、地域の様々なプレーヤーとのネットワークを通じて、地域課題を解決しながら地域経済の活性化を図ることが大事な役割のひとつ。

守山市の高校生たちが、どのような視点で自分たちの地域の課題を考えているのか、また、3市町の首長が、自ら地域に対して思う課題をどのようにピッチされるのか、非常に楽しみ。

シードチャレンジピッチ（成果報告会）、首長ピッチ@QUINTBRIDGE（11/18）その② （⇒シードチャレンジピッチでの発表内容とコメンテーターからのフィードバック）

【立命館守山高校】

守山市が学校に通うだけの場所になっていることから、**若者にとって魅力ある（映え）スポットのPRをもっと推進**して、守山市を「学校」以外の目的（観光やレジャー）で満喫したい。



【滋賀県立守山北高校】

友人が中退したことを機に問題意識を持ち、全国の不登校状況を調査したところ、**不登校から中退・転学に転じる若者が増加**していることが判明。若者が孤独がちになっていることが原因と考え、**人間関係をより良くするような仕組みを導入して、互いに思いを認め合える楽しい学校にしたい。**



【コメンテーターからのフィードバック】

愛媛県大洲市や奈良県天川村等をフィールドワークした経験から、**素晴らしいコンテンツのない地域はない**と実感。**PRの手法が重要**だが、他所にはない魅力発信や対象者の絞込み等、**趣向を凝らす工夫**も必要。

【コメンテーターからのフィードバック】

これからの学生には、**「きっかけ」と「選択肢」を与えることが必要**。学校という場に限らず、様々なコミュニティの場所を提供することで、若者の得手・不得手に対する新たな可能性を見出せるかもしれない。

【滋賀県立守山高校 Aチーム】

通学中、道端にごみが投棄されたままの風景を見て、不快な思いをした。また、知人からお土産等を貰った際に様々な包装がされていて、分別が不明瞭（または複雑）で廃棄しづらかった。そうした経験から、**ごみの分別方法をよりクリアにして、ごみのない綺麗なまち**にしたい。



【コメンテーターから】

「ごみを減らすには」「ごみを利活用するには」といった各フェーズで、**様々な関係者（行政、企業、市民等）との議論を深めることが重要**。また、動機づけのひとつに「ごみを分別するとポイントが貯まる」といったような**ポジティブな仕組みを導入**することも一案。

【滋賀県立守山高校 Bチーム】

守山市内では、駅近で友人と同じ空間で勉強できるスペースがない。学校、図書館、飲食店や塾は時間や利用料金等の制約があることから、**もっと気軽に勉強できるスペース**ができてほしい。そうしたスペースがあれば、県内の学力向上に繋がるかもしれない。



【コメンテーターから】

飲食店での勉強は店側にとってもビジネスロスになる一方、**学力＝国力**なので、**思う存分勉強できるスペースの確保は確かに必要**。色々要望を発表してもらったが、**もっと多くのニーズを出してもらおうと、企業側はよりビジネスチャンスとして捉えやすくなる**ため、遠慮なくどんどん要求してほしい。



【森中守山市長講評】

各チームから、魅力発信、環境、教育といった重要な課題について、高校生のフレッシュな視点で発表いただいた。各々の課題に対して、基礎自治体としてしっかり取り組む必要があると認識。

シードチャレンジピッチ（成果報告会）、首長ピッチ@QUINTBRIDGE（11/18）その③

（⇒首長ピッチでの発表内容とコメンテーターからのフィードバック）

【森中高史 守山市長のピッチ内容（課題は3点）】

- ① **全国ワーストの待機児童数**...守山市は人口（子育て世代）が増加している半面、**保育園・保育士の整備が追い付いていない**。加えて、産後ママのケアやベビーシッターといった**様々な子育てサービスの不足**も大きな課題。
- ② **JR守山駅前の駐車場不足**...**駅前ロータリーが狭く**、朝夕のラッシュ時は常に混雑。また、**村田製作所の新拠点が立地予定で、駐車場スペースの確保（土地の有効利用）**が急務。
- ③ **食品ロスの削減**...守山市中部の田園地帯の農家によると、**規格外の農作物も販売したいが加工できる設備がなく、廃棄せざるを得ない**状況。守山市に限定せず滋賀県内でも良いが、**規格外作物を加工できる設備を建設して、食品ロスを削減したい**。



【コメンテーターからのフィードバック】

- ①（待機児童問題を含めた）**子育て支援は、助産師が作ったスタートアップ企業もあり**、育休を取る女性サポートや、父親（男性）側への教育サービスを提供しているので、**そういった事業者と提携してみる**のも一案。
- ② 駐車場問題は、駐車場を増やすのではなく、**そもそも車の利用を抑制するようなアイデア**を取り入れてみると、**新たなイノベーション**が生まれる可能性も。
- ③ **食品メーカーとの官民連携**に積極的に取り組めば、加工工場の企業誘致や企業版ふるさと納税に繋がる場合もある。

【森田浩司 三宅町長のピッチ内容（課題は1点）】

- ・ **人（ヒト）**...三宅町は日本で二番目に小さい町（面積約4.06km²、人口約6,700人）で、**「小さい＝可能性がある町」**を掲げ、**「“small”の価値を追求したまちづくり」**を目指している。小さいからこそ、**チャレンジ（失敗）**や**小回りの利きやすさを大切に**し、**外部人材が活躍しやすい土壌づくり**を目指しているが、人口が少ないということは、**内部でチャレンジしようと思うプレイヤーが少ない**ということでもあり、外部からの参画を多く募りたい。



【コメンテーターからのフィードバック】

- ・ **町の規模が小さいからこそ、小回りが利いたりコストを抑えることが出来る**といった**メリット**がある。町として失敗を大切にす文化を根付かせようと取り組んでいるので、**実証実験の場としては良い環境**になるのではないかと。また、**失敗を可視化できるような仕組み（プロセス）を導入**できればなお良い環境が構築できると思う。

シードチャレンジピッチ（成果報告会）、首長ピッチ@QUINTBRIDGE（11/18）その④ （首長ピッチでの発表内容とコメンテーターからのフィードバック ほか）

【上村一郎 東かがわ市長のピッチ内容（課題は2点）】

- ① **草刈り問題**... 町中の草刈りが問題なく行われていた2~30年前と異なり、現在では人口減少や高齢化、雇用形態（働き方）の変化等によるコミュニティの希薄化が要因となって、日常的な草刈りの機会が減少してきた結果、雑草が伸び放題になって町の景観や通行の安全性が損なわれつつある。移住希望者が移住を決めるポイントに、町中の草刈りが行き届いているかどうかを見ているといった話も聞く中で、町の景観をいかに綺麗に保つかが課題。
- ② **インフラ（土木、電気、水道）技術者の不足**... ①同様、人口減少や高齢化によりインフラ技術者としての成り手がますます減少している。このまま成り手が減少すると、現役職人の負担が増えるばかりだが、技術者を増やそうにも資格が必要なので簡単に増やすことができず、このまま担い手が減り続けると町が維持できなくなるおそれがある。



【コメンテーターからのフィードバック】

- ① 一口に「草刈りが必要な場所」と言っても様々な地形があり、AI技術で対応できるところ、人力が必要なところ等条件が変わると思うので、細かいニーズを積み上げていけば、企業側も対応できる幅が広がる（例えば、草刈り活動を企業研修や企業版ふるさと納税の体験項目の一環として採用）と思う。
- ② インフラ技術者の確保については、例えば、「地域おこし協力隊」として若者を呼び込みつつ、インフラ技術の資格取得までサポートするといった支援を行うことも一案。



（ピッチ終了後の交流会にて）
【児玉光載 四国財務局長 挨拶】

様々な世代、様々な階層の方が声を出しあって、ネットワークを広げることで良い社会を築いていくことが出来る。本日はそうした素晴らしい会になったと思うので、本日のイベント開催のために尽力いただいた関係者の皆様に感謝したい。

近畿財務局大津財務事務所は、今後も地方創生、地域活性化のために、関係機関と連携しながら、様々な形で貢献できるよう取り組んでまいります。



※ ピッチ当日の様子はYouTubeで閲覧できます。
【フル版】
<https://www.youtube.com/live/7FcqDGaMx-U?si=WupJEmI6kQsqUiWX>
【ダイジェスト版】
<https://youtu.be/A7yD89R9nHM?si=0h5i6DcgxyVXO8wk>